

ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任

2023 年度の担当科目一覧表

科目区分 (教養／専門／教職)	科目名	種別 (必修／選択)	開講時期	受講者数
教養	基礎情報科学演習 1 (文化教養 1)	必修	1 年前期	20 名
教養	基礎情報科学演習 1 (文化教養 2)	必修	1 年前期	20 名
教養	基礎情報科学演習 1 (音楽)	必修	1 年前期	21 名
教養	基礎情報科学演習 2 (文化教養)	選択	1 年前期	40 名
教養	基礎情報科学演習 2 (音楽)	選択	1 年後期	16 名
専門	プレゼミナール 1	必修	1 年前期	7 名
専門	プレゼミナール 2	必修	1 年後期	7 名
専門	情報処理技能演習(文化教養 1)	選択	1 年後期	13 名
専門	情報処理技能演習(文化教養 2)	選択	1 年後期	12 名
専門	卒業研究 1	必修	2 年前期	8 名
専門	卒業研究 2	必修	2 年後期	8 名

*科目区分：「教養」、「専門」、「教職」の 3 つから指定すること。

*種別：「必修」、「選択」の 2 つから指定すること。なお、選択必修は「選択」とする。

2. 教育の理念

日々進展する情報社会において、情報機器を用いて情報収集・分析・加工・発信を行う「ICT 利活用能力」は、社会人に求められる基礎力のひとつである。学生自身が設定した問題解決のために、インターネット上の膨大な情報の中から、法律を遵守しながら情報を的確に探し出し、分析・加工を行い、自身の考えとして発信できるスキルを身に付けることである。

3. 教育の方法

ICT 利活用のため、学生とのコミュニケーションについては、本学の情報システムである e ラーニングサイト(FWJConLine)、メール(Active!mail)を用いて行っている。担当科目全てにおいて FWJConLine を用いて、授業資料等の提示、小テスト、課題の提出及びフィードバック、アンケート等を行う双方向型授業、自主学習支援を行っており、「ICT 利活用能力」が、通常授業の中で身に付くように工夫している。なお、課題については、期限を設けているものの合格するまで何度も再提出させるようにしている。また、質問の対応をオフィスアワーに限らず空き時間に実施している。

教養科目では、インターネット・リテラシを身に付けるため、ネチケット、法律、情報セキュリティ(コンピュータ犯罪を含む)など、PC の他、学生にとって身近なスマートフォンを対象とした情報収集、再利用時における注意喚起を行っている。情報リテラシについては、収集した大量のデータを効率よく集計・分析する方法を、表計算ソフトウェアを用いた演習を通して体験させている。また、情報発信方法として、文書作成、プレゼンテーションだけでなく、PC とスマート

フォンを連動した動画コンテンツの作成を行っている。

専門科目では、情報発信方法である Web ページのデザイン・制作といった基本技術の習得だけでなく、SNS との連携、動きのある Web ページ制作などの応用技術を効果的に取り入れているようにしている。

情報科目だけでなく、学科教員全員で担当するプレゼミナール 1・2 などでも、アクティブ・ラーニング形式の活動を導入し、その中で ICT 機器の利活用を通して、情報処理スキルを身に付ける内容を取り入れている。「卒業研究 1・2」においても、各自でテーマを決め、研究活動を実践する上で必要なアプリケーションソフトウェア、および情報通信を活用した情報収集(文献調査等)・分析・加工・編集・表現の総合的な実習によって、情報実務実践力を習得させるようにしている。

4. 教育の成果

教養科目(基礎情報科学演習 1・2)については、概ねねらい通りの成果が上がっている。課題については、授業外での質問対応をできる限り行い、合格するまで何度も提出させることにより、「パソコンの使い方を分かりやすく教えてくれたので、以前よりできるようになった。」「分からない箇所は丁寧に教えてくださるので、身につくのが早く感じました」「パソコンは苦手な方でしたが、丁寧に説明してくださったのでスムーズに進め理解することができました。」「授業外の指導も分かりやすくしてくださったのでうれしかったです」という学生からの評価もある。

専門科目(情報処理技能演習)については、期待以上の成果を得ることができた。「内容は難しかったが、変化を見つけられると理解できた」「ウェブサイトを作るのは難しかったが、楽しく作ることができて良かった」などの学生コメントがあった。最終課題では、授業中に教えていないテクニックを駆使し、動きのある Web サイトを構築した学生がおり感心した。

情報系科目以外の専門科目(プレゼミナール 1・2、卒業研究 1・2)でも、ICT 利活用を徹底したことにより、教養科目で習得したスキルを用いて、プレゼンテーション、動画報告などすべての学生が取り組むことができた。特に、卒業研究 1・2 については、学生自身で研究テーマを決定させ、1 年間の研究活動の総まとめとして、論文の執筆、研究成果の発表(卒業研究発表会)を行った。卒業研究発表会は、4 年ぶりに対面型で実施することができた。しかし、一般聴衆者向けスペースを確保することができず、Zoom によるオンライン配信を教職員向けに行った(以上、根拠資料[5])。

プレゼミナール 1 の成果物の一部(POP、おすすめの本の紹介(一冊の本))は外部、オンラインで展示し、学生にとって自信となったようだ。また、卒業研究 1・2 の成果物のうち、卒業論文集(要約)はオンライン展示を行い、卒業研究発表資料等についても、学内イベントで展示している。

5. 今後の目標

教養・専門科目の情報系科目については、これまでと同様の方法、内容で情報利活用能力を身に付けさせていきたい。課題は合格するまで何度も再提出させるようにしているが、徹底していないのも事実である。再提出の徹底を図るとともに、学生のモチベーション維持についても検討する必要がある。

情報系科目以外の科目である「プレゼミナール 1・2」はこれまで同様、大学での学び、卒業研究 1・2 への意識付けをさらに図っていきたい。一方、「卒業研究 1・2」は、研究テーマの策定に時間を要してしまった。研究テーマは自分で決めるべきであると思うが、できるだけ早くテーマを決められるような仕掛けが必要と思い、ICT 支援プロジェクトを立ち上げた。2023 年度に「だざいふ文学マップシステム構築」、「360° カメラを用いた学内バーチャルツアーシステム構築」を行った。これにより、学生自身で研究テーマを決めることを基本としながらも、教員側から提示したシステム開発系のテーマの選択も可能としている。

6. 根拠資料

- [1] シラバス
- [2] 授業資料
- [3] 授業評価アンケート結果
- [4] 授業改善計画書
- [5] その他（FWJConLine「基礎情報科学演習 1」「基礎情報科学演習 2」「プレゼミナール 1」「プレゼミナール 2」「情報処理技能演習」「卒業研究 1」「卒業研究 2」コース）